

2019年度「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成先選考結果のご報告

第5回目となる「重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたのでご報告いたします。

助成先団体及び対象となる事業（50音順）

| No | 団体名 | 事業名 | 都道府県 | 助成希望額 |
|----|---------------------------------------|--|------|-----------|
| 1 | 特定非営利活動法人 i-care kids 京都 | 医療的ケアを必要とする子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト | 京都府 | 529,520 |
| 2 | 非営利活動団体病気の子どもと家族を孤立させない支援団体NPO未来ISSEY | 香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業 | 香川県 | 1,999,000 |
| 3 | 一般社団法人 在宅療養ネットワーク | 立体オリジナル絵本で子どもたちと楽しみながら医療的ケア児等への理解を促す心のバリアフリー促進教育事業 | 香川県 | 1,520,000 |
| 4 | 一般社団法人 日本育療学会 | 病気療養する子どもがいる自宅や病室と学校の教室とをICT活用によって「確実につなぐ」学びの支援事業 | 京都府 | 1,680,310 |
| 5 | 特定非営利活動法人 BLACKSOX | チャレンジスポーツ！【医ケア児・重度障がい児】 | 神奈川県 | 1,468,200 |
| 6 | 認定特定非営利活動法人 ポケットサポート | 学校現場における病気を抱える子どもの支援課題調査と啓発事業 | 岡山県 | 1,858,000 |

合計額 9,055,030

今回の助成について

募集期間：2019年8月1日～2019年9月25日

助成金総額：10,000千円

応募数：30件 採択事業数：6件（計9,055,030円）

助成対象となる活動期間：2020年4月1日～2021年3月31日

助成選考委員会：助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ5名の選考委員（当財団理事1名と外部有識者4名）で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長からのコメント

本助成は、重い病気により困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びを支援する事業を対象としたもので、5年目の実施となります。この領域を支援されている団体の方々に、弊財団が助成事業を行っていることが広く知られるようになった結果、申請数は過去最高だった昨年度を上回る30件となりました。うち22件が新規の団体であり、事業内容もバラエティーに富んだものでした。

助成選考委員会にて厳正に審査を行い、6件を採択しました。今回の審査でも例年通り、以下の観点を重視しました。

- ・モデル性：他の団体のモデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか
- ・地域との連携：病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか
- ・継続性：助成終了後の事業継続の見通しがあるか

これまで継続的に助成していた団体に対しては、より発展性を求めた結果、採択に至らない団体もありました。また、すぐれた取り組みであるにもかかわらず、助成期間終了後の活動継続が困難であると見込まれるため、採択には至らない団体もありました。採択された団体の皆様には、本テーマにおいて先駆的な活動を実践している団体として、よきモデルとなっていていただくことを期待しています。

当財団では、助成団体をサポートするだけでなく、本テーマがいっそう社会的に認知され、関心が広げることに寄与する活動にも取り組んでいきたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金
理事・選考委員長
耳塚寛明

【団体名】

特定非営利活動法人 i-care kids 京都

【URL】

<https://i-carekids.com>

【申請事業名】

医療的ケアを必要とする子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト

【メッセージ】

この度は、私たち団体の「医療的ケアを必要とする子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト」に、ベネッセこども基金のご支援を賜り心から感謝を申し上げます。

私たちは、5年ほど前から医療的ケアの必要な子どもたちの家族が集まり、家族交流会やシンポジウムなどを開催してきました。2020年4月に医療的ケアの必要な子どもたちを積極的に受け入れる小規模保育園「キコレ」を開園するために2019年1月にNPO法人格を取得し、現在保育園の開園に向けて準備を進めています。保育園が開園したら、保育事業を柱に、様々な家族支援事業を展開していく予定です。

今回、採択していただいた「医療的ケアを必要とする子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト」ですが、医療的ケアの必要な子どもたちにとっての“食”は、長期入院による様々な体験の不足や、鼻に入れたチューブや胃ろうからの栄養摂取だったり、健常児に比べて、「痛み」を伴うものであったり、体験の幅が限られるものです。また病院では医療的ケアの必要な子どもたちには既存の栄養剤を提供することも多く、豊かな食生活を送る機会を奪われていることも少なくありません。

そこで私たちは、「医療的ケア児と食育」をテーマに、“食べること”を通して医療的ケアの必要な子どもたちと共に豊かな体験ができないかと考えました。保育園の小さなお庭に実のなる木を植えたり、お野菜を育てたり、それらを収穫して、触ってみたり、においを嗅いだり、味わってみたり、、、。様々な制限はあるかもしれないけれど、子ども一人一人が、五感を使って、“食べること”を体験できたらと考えています。また、医師、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、管理栄養士などの専門家とともに、子どもたちの“食”の世界を広げる取り組みを展開したいと考えています。小規模保育園「キコレ」に通う子どもたちだけではなく、地域に住む医療的ケアの必要な子どもたちと家族にも幅広く機会を提供できたらと考えています。

医療的ケアを必要とする子どもたちの“食”の世界が少しずつ広がっていくことを願いながら、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

【団体名】

非営利活動団体病気の子どもと家族を孤立させない支援団体NPO
未来ISSEY

【URL】

<http://www.miraiissey.com/>

【申請事業名】

香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業

【メッセージ】

今回、助成決定の通知をいただき本当にうれしく思っています。ありがとうございます。

病気の子どもと家族を孤立させない支援団体NPO未来ISSEYはこれまで対象者が少数ということもあり、十分なサポートがなされていなかった香川県の長期入院・療養している子どもやその家族への支援をしたいということで2018年11月に立ち上げた団体です。しかし設立間もないということもあり、まだ認知度も低く寄付等も集まりにくい中、今回の助成をいただけた意味は本当に大きいです。

対象家族、病院や行政への働きかけから始まり、少しずつですが理解いただける方や団体も増え、当団体を頼ってくれる対象者も増えてきました。そうした中で当団体が一番実現させたい患児やきょうだい児へのケアサポート事業については単発ではなく、継続的に支援を行わないと意味が半減してしまいます。継続的に行うにあたっては資金が必要となりますが、前述したようにまだまだ寄付等だけでは賄いきれません。

今回いただけた助成金で対象者への継続的な支援が確立できるよう軌道に乗せていきたいと思っています。そして子ども達が少しでも笑顔になれるよう活動していきたいと思えます。

【団体名】

一般社団法人 在宅療養ネットワーク

【URL】

<http://ryouyounet.blog.fc2.com/>

【申請事業名】

立体オリジナル絵本で子どもたちと楽しみながら医療的ケア児等への理解を促す心のバリアフリー促進教育事業

【メッセージ】

当法人は、医療的ケアが必要な児者の望む暮らしの応援団として、多職種のメンバーで、多様なニーズに対応する活動をおこなっています。

小児の医療的ケアに対応できる支援者の不足、地域住民の医療的ケア児に関する理解も不十分のため、自宅と病院以外に居場所がない現状に対して、就園・就学の制度の充足が行われましたが、就園・就学先における集団での子ども同士の関わりや、遊びの確保がまだ十分とは言えない状況です。特に児童に理解可能な言葉での説明が十分に行えず、現場の困惑があります。

今回のご支援で、個々の医療的ケアの特性に対応した教材開発を目指し、聞きなれない医療的ケアの用語、身体構造、ノーマライゼーションに関する絵本を作成して、医療的ケア児との関わり経験の有無を問わず、正しい知識の普及と心のバリアフリー化の促進に活用させていただきます。

また、この活動成果をテキスト化することで、広域かつ反復できる学びの機会に展開し、より多くの医療的ケア児が地域社会の中で孤立することなく日々を楽しめるように、教育、福祉、医療の連携形成、柔軟な受け入れ先の創出に繋げていきたいと考えています。

公益財団法人ベネッセこども基金のご支援いただけますこと、心より感謝申し上げます。

【団体名】

一般社団法人 日本育療学会

【URL】

<http://nihonikuryo.jp/>

【申請事業名】

病気療養する子どもがいる自宅や病室と学校の教室とをICT活用によって「確実につなぐ」学びの支援事業

【メッセージ】

日本学術会議協力学術研究団体である一般社団法人日本育療学会は、病気や障害のある子どもの現在及び将来にわたって、充実した生活が営まれるようにするために、教育、医療、福祉、家族及び本会の目的に賛同する関係者（病気や障害のある子どもの教育、小児医療、小児看護を専門とする大学教員、小児医療に関わる医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー、作業療法士、理学療法士、社会福祉法人職員、福祉行政担当者、学校教員等）が一体となって子どもの健全育成を図るための研究・研修を推進し、その成果を普及することを目的として、1994年から研究活動、事業を行っております。

病気療養する子どもが入院している病院にある学校の教員は、医師や看護師等と連携して、子どもが主体的で意欲的に活動できる環境を整えながら教育活動を行っています。しかし、退院後、感染症予防等のため在宅療養を余儀なくされる子どもは、学校教育の機会を失うことになる等の現状があります。このことから、病院にある学校では、学校の教室と病室、自宅とをICT活用によるWEB会議等によって同時双方向で授業を行う取り組みが行われつつあります。しかしながら、多くの自治体において、携帯型モバイルWiFiルーターは、公費での購入ができません。そのため、教員個人所有の通信機器による同時双方向通信とならざるを得ず、積極的な学び支援活動にはなっていません。結果、学校に通うことができない病気療養する子どもの「学びの機会」が保障されていない状況が続いています。このような状況を解決したく、本事業を立案いたしました。

今回、本事業に対して、公益財団法人ベネッセこども基金からご支援いただけますことに心より感謝申し上げますとともに、病気療養する子どもたちの幸せのために、邁進していきたいと考えております。

【団体名】

特定非営利活動法人BLACKSOX

【URL】

<http://www.blacksox.jp>

【申請事業名】

チャレンジスポーツ！【医ケア児・重度障がい児】

【メッセージ】

この度は、2019年度重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成に選んでいただきありがとうございます。

チャレンジスポーツ！では医療的ケア児童・重度重複障がい児向けに特化した

・電動車イスサッカー、ボッチャ、風船バレー、フラダンス、かけっこなどスポーツ系

・紙ひこうき飛ばし、はないちもんめ、だるまさんがころんだ、ハンカチ落とし、などの伝承遊び系

・ICTを活用したコミュニケーション体験会、視線入力ゲーム体験などの座学系

・ジャンベ、カラオケなどの音楽系

などスポーツのみにこだわらず障がい児・健常児が共に集まり楽しく過ごすイベントの開催します。

スポーツ、遊びは目標の設定により、サポートの仕方により「出来た！感」「達成感」を掴みやすいようです。医療的ケア児童・重度重複障がい児の同年代の健常児とのスポーツによる「出来た！」、そのコミュニケーションによる「伝わった！」という達成感により、【自己肯定感】を高め、新しい目標にチャレンジする心を育みます。

健常児には同じく「お手伝いした」という達成感、自己肯定感とともに「相手を大切に思う心」を育てていきます。

この事業で「子どもの成長を促す豊かな体験や出会い」を創っていきます。

【団体名】

認定特定非営利活動法人 ポケットサポート

【URL】

<https://www.pokesapo.com/>

【申請事業名】

学校現場における病気を抱える子どもの支援課題調査と啓発事業

【メッセージ】

本事業を採択していただきありがとうございます。病気を抱える子どもたちは、入院治療を経て退院後は、地域の学校に所属しています。しかし、治療継続中や長期療養中の子どもたちにとっては生活規制や制限も多く、周囲に理解を得られづらい状況にあります。そのような課題は今まで、保護者や本人による自助努力、関わる先生方だけにノウハウがあり、その中だけで完結してきました。

本事業では県内学校現場における病気を抱える子どもたちの支援課題を調査し、その内容をまとめ配布することで、様々な地域で困難を抱える子どもたちを支える一助となると考えています。さらに、シンポジウムにより知見を広げることで、他地域での病気の子どもの諸課題の解決につながるよう努めていきたいと考えています。

ベネッセこども基金様をはじめ、様々な支援団体・支援者の皆さんと力を合わせて社会課題解決に向けて岡山から発信していきたいと思えます。